

【目指す姿】								
ふるさとを知り、大切にする子						地域部		
	評価項目(成果) 取組(教育・運営活動)	評価基準	1学期			2学期		
			評価		分析及び考察	評価		
成果	○地域の様々な文化的資源とかかかわる活動をとおして、ふるさとを知り、大切にしていこうとする児童が80%以上になる。	・児童アンケート「生活科・総合的な学習の時間などから、浦佐のよいところを言えますか。」 ・保護者アンケート「地域のよいところを言える。」 →両方とも全体の80%以上達成のときA評価	児童 73.9 %	B	・1学期は地域を「知る」段階であったためか、児童の達成率は1、4年が高く、2、3、5、6年は50～70%台にとどまった。2学期以降、文化的資源や自然との関わりをさらに増やし、活動を深めていけるよう工夫する。 ・学期を追うごとに達成率が上がっていくように、2学期以降の活動を通して、児童が地域のよさを更に知り、ふるさとを大切にしようという意識を高められるよう努める。	児童 77.8 %	B	・児童、保護者、職員とも評価の数値が上がった。児童の達成率は3、4年で80%を超え、他の学年も80%に近い数値となった。しかし、「とてもそう思う」の比率は、1年が70%台と高いが、全校では40%程度にとどまった。 ・学習発表会で、複数の学年が生活科や総合的な学習の時間の取組の成果を発表した。 ・各学年でたくさんの活動を設定したことで、地域のよさに目を向けることができた。
	保護者 72.8 %	保護者 77.1 %						
	(職員) 90.5 %	(職員) 100.0 %						
	○異なる文化をもつ人々とかかわりにより、相手の思いを受け止めたり、多様な考えや文化があることに気付いたりする児童が80%以上になる。	・児童アンケート「さまざまな考えや文化があることに気が付きましたか。」 ・保護者アンケート「多様な考えや文化に気が付いている。」 →両方とも全体の80%以上達成のときA評価	児童 83.0 %	B	・多様な文化の気付きについて、児童の達成率は1、4、5、6年が高く、2、3年は60～70%台にとどまった。2学期以降、国際科の活動で、児童の実態に合わせて単元の内容を考えるなど、工夫して活動を設定するようにしていく。 ・「自国の文化や伝統のよさ」を感じることができるよう、意図的に活動を設定し、様々な教科と関連付けて知ったり、感じたりすることができるよう工夫していく。	児童 84.9 %	A	・児童、保護者、職員とも評価の数値が上がった。児童の達成率は1、4、5年で85%以上と高く、他の学年も80%に近い数値となり、全体的に底上げされた。「とてもそう思う」の比率も、1、4年で70%以上と高く、全校でも50%程度となった。 ・留学生訪問では、国の紹介など、多くの児童が興味深く話に聞き入っていた。 ・外国籍児童と相互に文化などについて紹介しあう機会を各学級または学年で計画的に実施する。また、転入した学期内に、各学級で簡単な自己紹介ができるよう、ジャパニーズクラスで指導する。
保護者 75.6 %	保護者 82.4 %							
(職員) 52.4 %	(職員) 100.0 %							
教育活動	○地域(人、物、場所、出来事)とかかわる活動を学期に1回以上設定する。	A: 学期に1回以上実施 B: 実施していない学級がある	10／10学級	A	・各学年が地域とかかわる活動を計画的に実践した。 ・地域とかかわる活動や振り返りの場を設定することができた。	8／10学級	B	・各学年で活動から学んだことを振り返り、自分なりにまとめたことを発表し合うことで、深め合いの場を設定することができた。
	○国際理解や外国籍児童・保護者との活動など、異なる文化とかかわる場を学期に1回以上設定する。	A: 学期に1回以上実施 B: 実施していない学級がある	9／10学級			B		
運営活動	○地域コーディネーター(地域づくり協議会等も含む)と連携した、職員研修を年に1回以上行う。(情報交換、共有など)	A: 年に1回以上実施 B: 実施していない	年間で評価		・今後、職員研修などを実施し、連携を深める予定。	年間で評価		・随時、地域コーディネーターと連携しながら活動を実施することができた。 ・活動のまとめとして、地域コーディネーターを招いた職員研修が必要かもしれない。
	○人材バンク(地域住民、国際大学、外国籍児童の保護者など)の整備や資料の周知を行う。	具体的取組を記載 ・地域コーディネーターと連携していく。各学年の活動に応じて、講師を紹介していただいたり、一緒に活動していただいたりする。	・各学年で事前に下見を行ったり、地域人材を活用したりすることができた。 ・人材バンクや指導計画を学期ごとに見直し、加除訂正していく。		・各学年が必要な下見、打合せをしていた。 ・地域人材を有効に活用して活動を仕組むことができた。 ・人材バンクや指導計画を学期ごとに見直し、加除訂正していく。			